

## シンポジウムⅡ

4. 高気圧酸素療法の人工歯根植立への  
応用

新美 敦 上田 実

(名古屋大学医学部口腔外科学講座)

高気圧酸素療法 (HBO) は口腔顎顔面領域において、顎骨骨髓炎の治療を中心に用いられてきた。特に、放射線性骨髄炎に関しては、HBO の応用の研究が進んでおり、確立した方法となっている。

一方、近年、口腔顎顔面領域の悪性腫瘍の術後の咀嚼機能再建のためにチタン製人工歯根 (インプラント) の有用性が示されてきている。このような症例においては、放射線照射の既往がある部位と顎骨再建のために行った骨移植部位における骨治癒能力の低下が問題となる。これらの問題に関して、本講演では以下の2つの研究結果を中心に検討する。

①放射線照射部位へ植立されたインプラントへの HBO の効果に関する日米の多施設共同研究。

対象は44名の患者の228本のインプラントで、HBO を併用した患者は14名、インプラント数は67本であった。インプラントの成功率は、上顎骨では HBO を併用した場合80%に対して併用しない場合60%であった。一方、下顎骨では HBO 併用の有無に関わらず98%をこえる成功率が得られた。

②遊離骨移植部位へ同時植立したインプラントに対する HBO の効果に関する組織形態計測研究。

日本白色ウサギを用いて、下顎骨下縁部に骨欠損を形成し、欠損と同じ大きさの骨片を腸骨より移植すると同時にインプラントを植立した。インプラント植立後120日における移植骨とインプラントの接触率は、HBO を併用したもので平均38%、併用しなかったもので平均27%であった。

## シンポジウムⅡ

5. 食道静脈瘤治療中あるいは肝切除後の  
肝機能増悪例に対する高気圧酸素  
療法森山雄吉<sup>\*1)</sup> 恩田昌彦<sup>\*3)</sup> 松田範子<sup>\*3)</sup>谷合信彦<sup>\*3)</sup> 吉田 寛<sup>\*3)</sup> 松倉則夫<sup>3)</sup>徳永 昭<sup>\*3)</sup> 田尻 孝<sup>\*3)</sup> 内山喜一郎<sup>\*1)</sup>京野昭二<sup>\*2)</sup>

\*1) 日本医科大学付属第二病院消化器病センター

\*2) 同 付属千葉北総病院外科

\*3) 同 第一外科

肝硬変に伴う食道静脈瘤に硬化療法や各種塞栓術を、あるいは肝癌に肝切除術などの外科的治療を加えると侵襲が引き金となって肝機能障害が急激に増悪し、治療に難渋することがしばしばである。しかもひとたび肝不全に移行すると DIC や多臓器不全に陥り、極めて予後不良である。

この肝障害の進展には肝微小循環不全による肝実質への酸素供給低下が大きく関与していると言われており、高度肝障害に対する治療の一手段として高気圧酸素治療の有用性が最近注目されている。私どもも肝硬変に合併した食道静脈瘤の治療中にあるいは肝癌肝切除後の肝機能増悪例に対し、本法を施行して来ている。

治療は純酸素呼吸下、絶対3気圧、60~90分、1日1回で施行している。現在までに34例を経験している。しかし、その治療成績はいずれの症例も高度の肝障害、あるいは多臓器不全を伴ったものであるため決して良いとはいえない。

しかし血清ビリルビン値についてみると、病状悪化などのため施行が1回のみで中止となったものも含めても、施行前と比較して施行後24時間で明らかに低下しており、数回の治療がされて施行前と施行後最低値につき比較し得た症例で検討したところ、有意差をもって減少していた。

以上から高ビリルビン血症、さらには高度肝障害の新しい治療法としての高気圧酸素治療法の可能性を検討し報告する。